

2025年 大阪・関西万博開催

2025年大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」というコンセプトのもと、「未来社会の実験場」として、レベル4の自動運転や、空飛ぶクルマによる飛行自動運転する電気推進船によるアクセス、iPS細胞から作った臓器の展示などが予定されています。

こういった未来技術の実現のためには、夢洲がスーパーシティとして規制緩和が進められていく必要があります。

そのほか、世界中からアバターでバーチャル会場を楽しめるようにするほか、2022年には、オンライン上で世界の人々がSDGsなどについて議論できる「サイバー万博（仮称）」が始まる見込みです。



出典元：万博推進局



出典元：万博推進局

万博内の大阪パビリオンは、Rebornをテーマに、5つのゾーンで構成されます

具体的には、乗り物に乗った来場者の生体情報を計測し、パーソナルヘルスケアレコードなどのデータとつなげ、アンチエイジング「10最若返り」を提案するエイジング・ライド」や、寝ている間に生体情報を取得してアドバイスする「ミライの病院」、自身の細胞を使ってiPS細胞を培養する「細胞バンク」や、iPS細胞を使用した再生心臓を拍動する状態で展示するなど、未来の医療を感じられるものとされる予定です。



ミライの医療

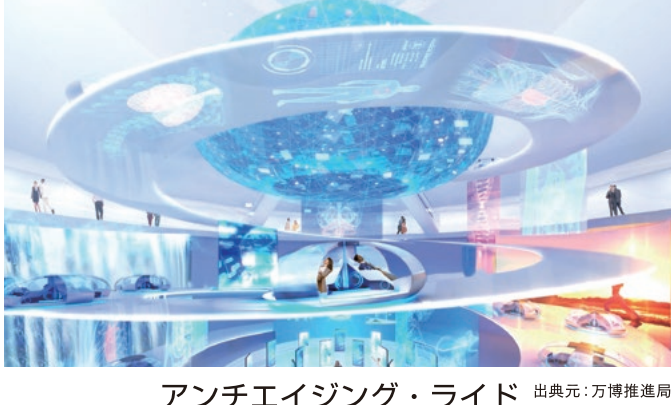
出典元：万博推進局

2023年には、バーチャル大阪館（仮称）も開設予定です。



バーチャル大阪館

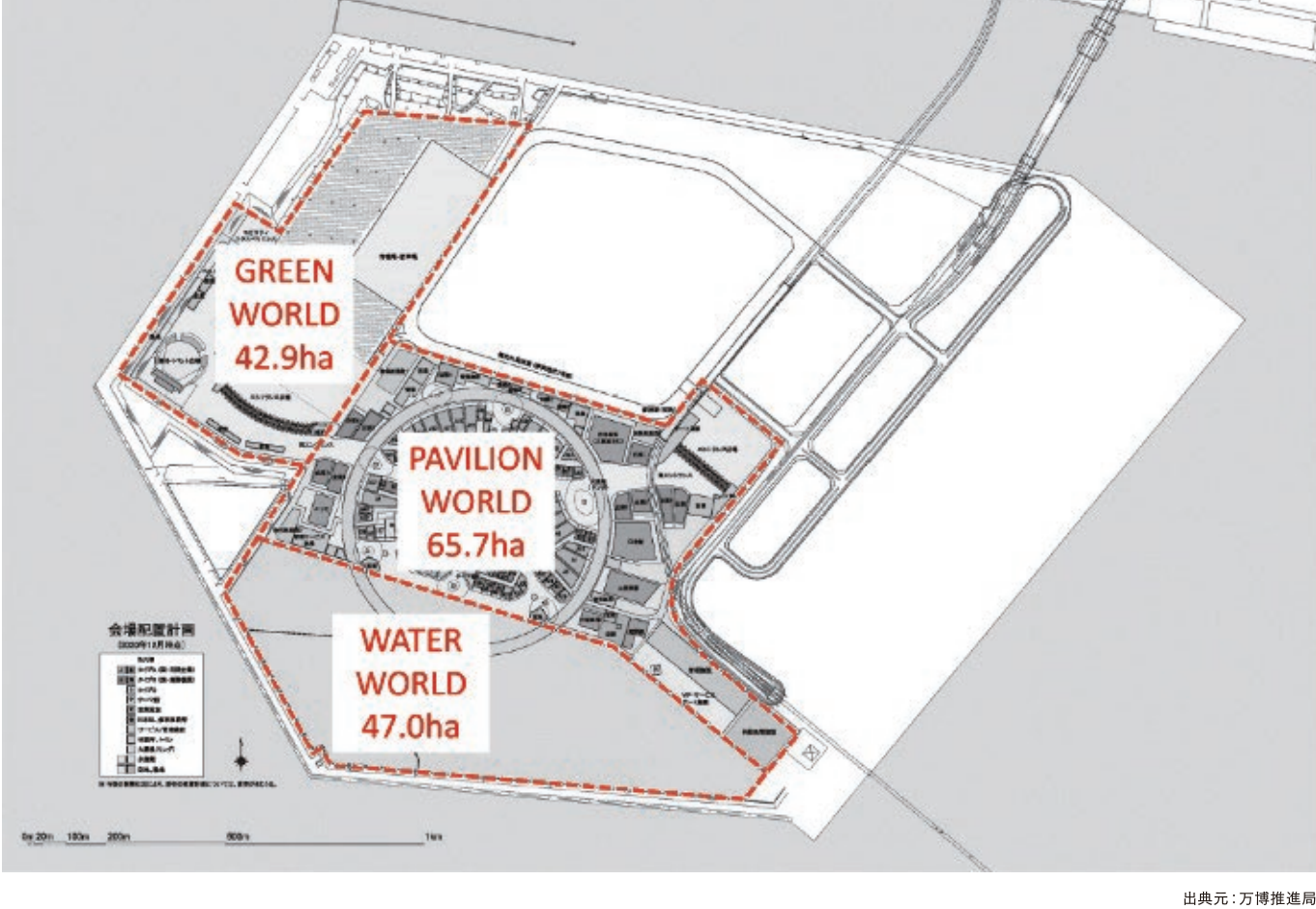
出典元：万博推進局



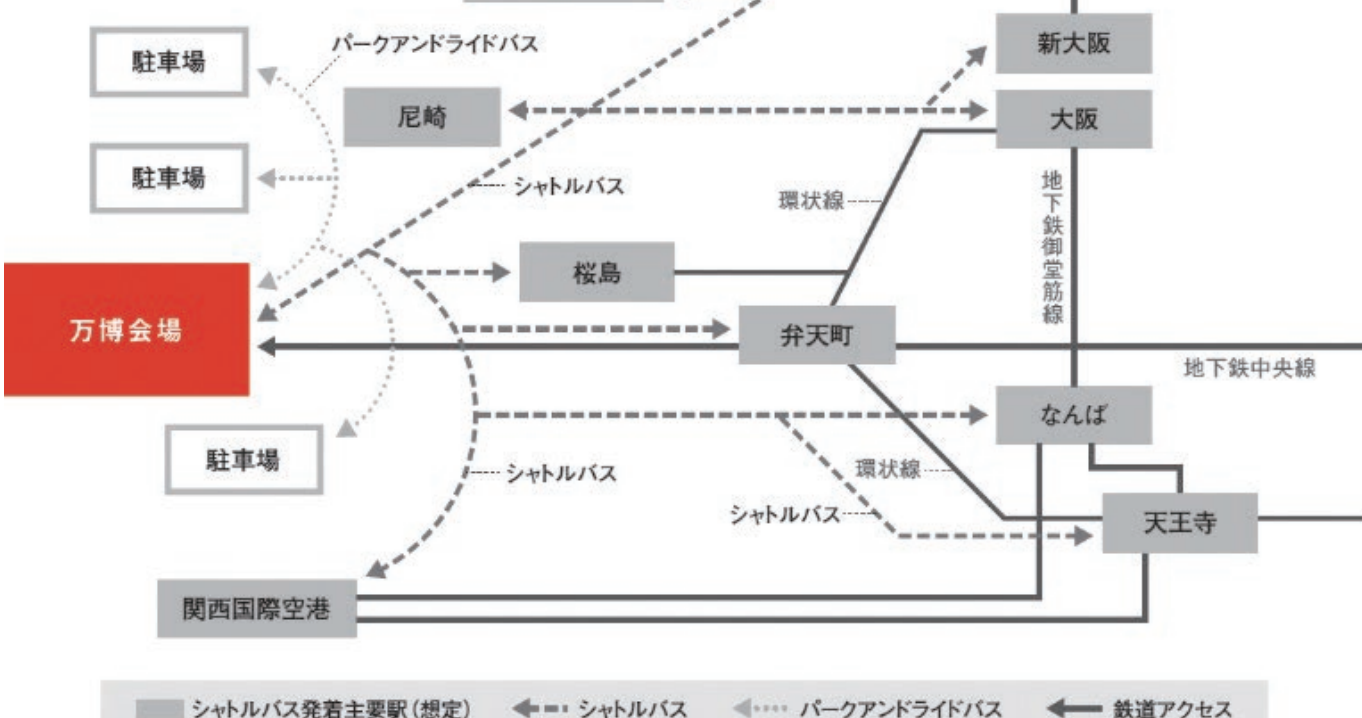
アンチエイジング・ライド

出典元：万博推進局

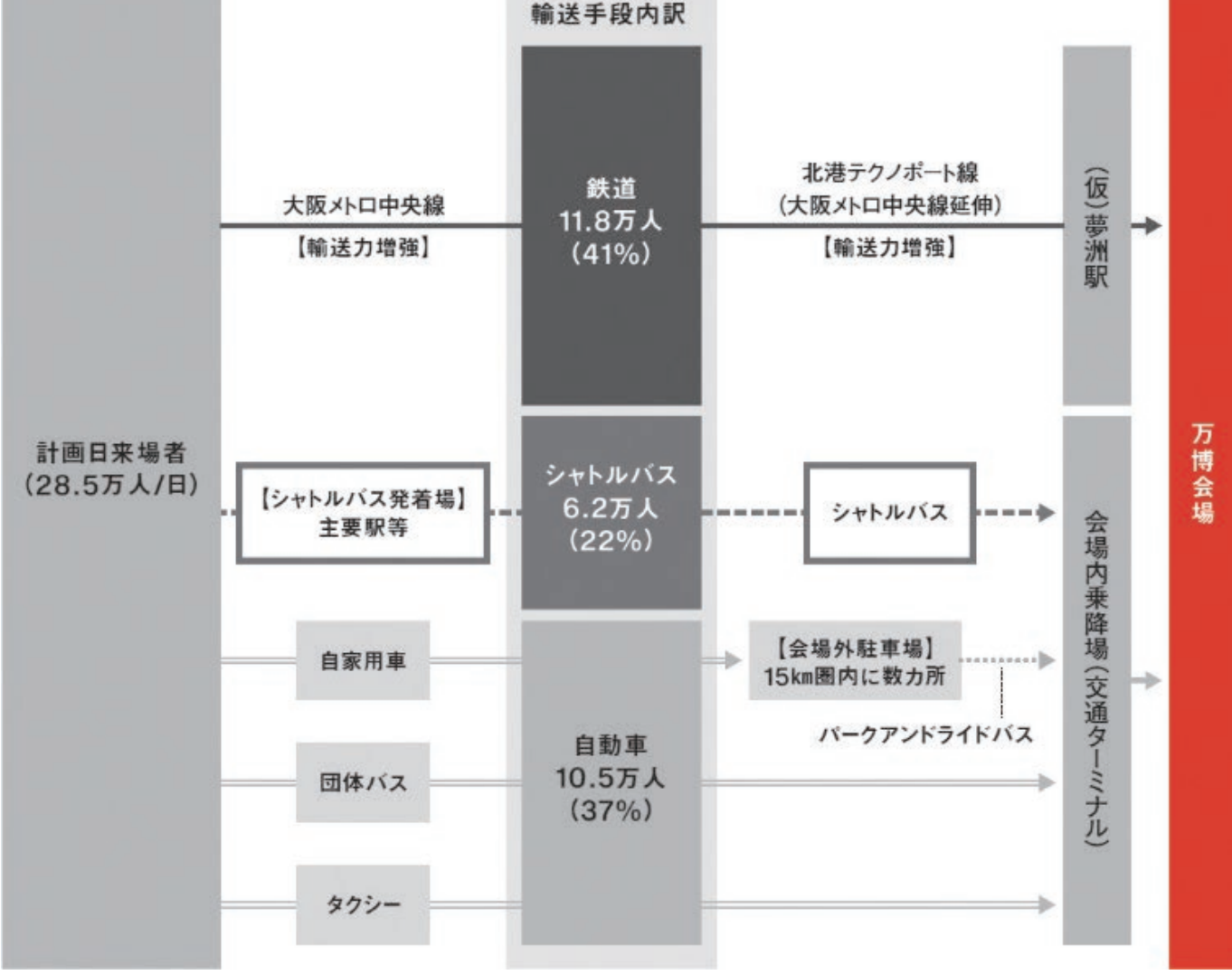
パビリオンワールド パビリオン等の施設が集まるにぎわいのエリア。 大屋根（リング）と地上レベルで異なる景観が楽しめる。	ウォーターワールド 水景を活用した憩いのエリア。 水辺に面して飲食施設を配置するとともに、水上イベントの舞台としても活用する。	グリーンワールド 会場の西側の海に面した緑地エリア。 屋外イベント広場や交通ターミナル、エントランス広場等大人数が滞留することのできる開けた空間とする。
--	--	---



出典元：万博推進局



出典元：万博推進局



出典元：万博推進局

《会場整備スケジュール》

年度	2020	2021	2022	2023 数地液しタイプ 土地引渡 (4月予定)	2024	2025
整備内容						
パビリオンタイプA 《参加国・企業・自治体等》		設計		工事		
協会整備施設 《博覧会協会》 ●パビリオンタイプB・C ●テーマ館 ●営業施設、催事 施設、迎賓館等		設計		工事		
会場内基盤・インフラ整備 《博覧会協会》 ●園路・通路 ●供給処理・通信等		設計		工事		
大阪市土地造成工事 《大阪港湾局》 ●埋立・盛土30ha	埋立・盛土工事		圧密期間			
環境影響評価 《博覧会協会》	方法書・準備書・評価書			事後調査等実施		

※2020年12月現在の予定。 ※（ ）内は実施主体。

出典元：万博推進局

《資金計画》

収入(億円)		支出(億円)	
国庫補助金収入	617	会場建設費	
大阪府・大阪市補助金収入	617	施設整備費	1,180
民間資金等収入	617	基盤・インフラ整備費	670
計	1,850	計	1,850
入場券売上	702	運営費	809
その他収入	107		
計	809		
収入計	2,659	支出計	2,659

※繰越処理のため合計額が一致しないことがある。

※会場建設費は、最大の額として1,850億円を計上している。

出典元：万博推進局